

犬のヒート後に起こる 黄体ホルモンのトラブルへの対応

今村 香

ホメオパシーセンター滋賀草津

JPHMA認定ホメオパス 0775

ZENメソッド習得認定 0087

JPHMA認定アニマルホメオパス A0109

JPHMAインナーチャイルドセラピスト

クライアント

動物 犬:ミニチュアピンシャー

女の子

2022年生まれ

異常なくらいの食欲
飼い主から離れない
皮膚のかゆみがある



初回相談の主訴

2023.8.2

初回発情の後、しばらくたって乳房に膨らみを感じた。そのあと、腹部の腫れが目立つようになる。

タイムライン

- ・2か月から3か月の頃に他の場所で育った
- ・5か月の頃、ワクチン、ノミダニ予防
ぐったりして元気がなくなった
- ・8か月の頃に初回発情
- ・その後、発情のたびに、乳房の腫れや下腹部の腫れに悩まされる

選んだレメディー

初回 Puls.

TBR(ボーニングハウゼンレパートリー)

#月経後

#乳房

#患部の腫れ

#子宮

#興奮している

その後

2回目以降の発情の後も主にPuls.でケア

他に使用したレメディー

Sep.

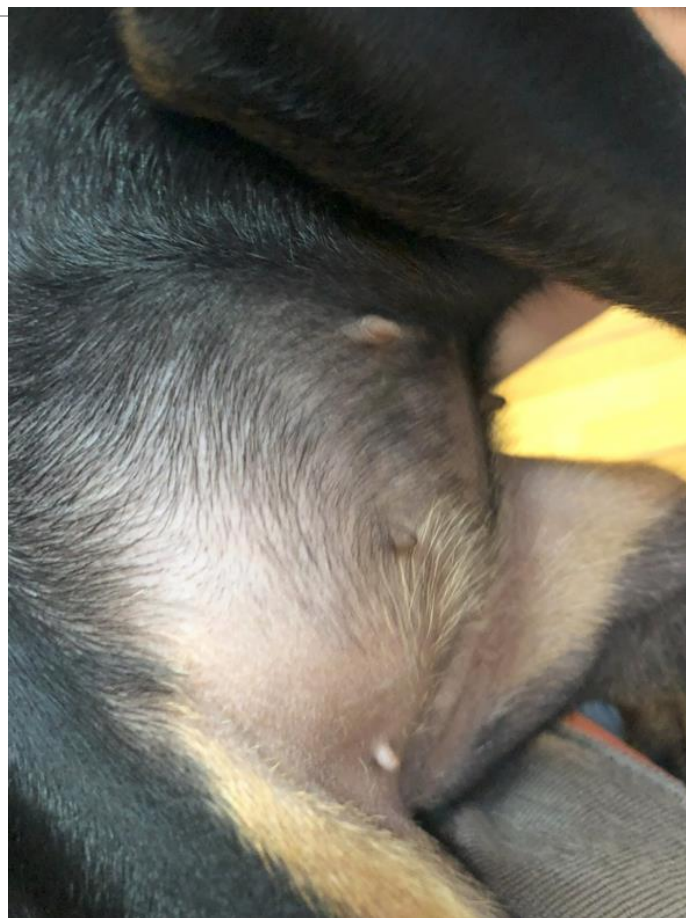
Lyc.

Caul.

乳房の腫れ



内腹部の腫れ



Before



After



犬の発情周期

- ・発情前期：出血が始まる（平均5～10日）
- ・発情期：交尾を受け入れる（平均7日～13日）
- ・発情休止期：（約2か月）

偽妊娠や子宮の問題が現れやすい

- ・無発情期（4か月～8か月）

繁殖に関するホルモンは休止

レメディーの可能性

一般的には、このような状態の時に、動物病院を受診すると、早めに手術を勧められます。

ただ、若くしての手術には、将来的な病気の誘発の可能性も報告されています。

今回、レメディーをとることによって、子宮の問題や乳房の問題が早く収束することができて、わんちゃん自身がしんどさからも解放されて、QOLを高めることが出来ました。